

(別紙4-1) (ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200021		
法人名	株式会社 橙果舎		
事業所名	グループホーム こもればの家		
所在地	恵庭市島松寿町1丁目16番5号		
自己評価作成日	平成23年10月16日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0191200021&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西 5 丁目 3 番地北 1 条ビル 3 階
訪問調査日	平成23年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の中に立地しており、リビングの窓からは優しいこもれびが入り、四季折々の景観を感じて過ごすことが出来ます。裏には、畑があらゆる野菜を植えて育ちから収穫まで利用者が主体となり行われている。冬になると、野鳥がホーム窓際まで訪問、野鳥を見ながら、和んでいます。こもれびの家では、『食』を大切に考えメニューは決めず、できる方が一緒に献立を考え、毎日買い出しに出かけている。地域の方々から、収穫時になると沢山のお野菜が届き、漬物を漬けて、保存するために畑へ埋める等も、利用者様の知恵をかりながら、日々楽しく生活を営んでおります。2週間に一度は、協力病院である尾形病院が往診に来られ、健康管理をして頂きながら、職員に対しアドバイス頂き、緊急時の協力体制も年々密になり協力体制が強化しつつあります。医療連携している恵み野病院からは、週に1度の健康管理と24時間の連絡体制、その他、職員のスキルアップ向うの為に、勉強会や相談に乗って頂いている。また市内のグループホームで構成される会で、研修を企画し、スタッフの向上や交流会なども行われている。地域との連携も更には、ホームのお祭りのみならず、地域のお祭りでは、ホームと地域が協力し合い催し物を行う等できる関係になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[illegible]

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさと

自己評価及び外部評価結果

自己 評価 状況	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については玄関、各フロアーに掲示している。また、『目配り、気配り、心配り』を持ち業務につく事を随時口頭、申し送りノートへ記載し理念の共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こもれびの夏祭りでは地域住民のご協力を頂き、町内会で行われる『敬老会』などの行事ではお声をかけて頂き利用者参加している。また今年は町内会行事に職員のバンド演奏を披露する機会を頂く。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校へペットボトルキャップ回収に協力を行う。夏祭りにて利用者が作ったフキンなどを販売し盲導犬協会へ募金をおこなう。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い、ホームでの日々の取り組み等を報告する、また、消防訓練を取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの向上や運営上で相談事があれば逐一市町村担当者と連携している。また、恵庭市が発信する『未帰宅者情報メールサービス』開始。協力を行う。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間など最小限の職員体勢時、転落事故や転倒事故の危険性が予測される場合のみ矢も得なく施錠を行っている。また、積極的に『身体拘束』研修会に参加し会議等で職員へ報告を行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に出席し部内勉強会で他事業所や在宅で発生した虐待例から高齢者虐待防止法などを学んでいる。また、積極的に『高齢者虐待』研修会に参加し会議等で職員へ報告を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで学ぶことが少なかったが、個々の必要性を関係者と話し合い、制度を活用できるうには努めているが、まだ、充分には活用しきれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安な気持ちを抱く心情を十分理解するように努め、契約前にしっかり契約書、重要事項説明書の説明を行いご家族様が納得されて方契約を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し直接ご意見をいただく。また、玄関に『意見箱』を設置し、ご意見を伺っている。頂いたご意見は可能な限りサービスに反映するよう努める。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回全体会議、ユニット会議を開催しており、その中で意見交換を行っている。また、短時間でも職員と意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ支援を積極的に取り入れ、職員一人一人が『個人目標の設定』をし、自己の評価を行い、職員一人一人と面談を行い、次に繋がるような目標やアドバイスなどを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修への参加の促し、内部研修を行い業務を行っている中から発生する疑問の解消に努めている。また、研修後は報告会を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は市内グループホーム主催の研修会を計画、実施し認知症ならびに嚥下、緩和ケアなど多岐にわたる研修会を行う。今後は合同で外出行事を企画。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居前から情報を頂き、入居前から、本人にお会いする機会を作り、入居直後のストレス軽減に努め信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が入居に至るまで不安に思われることは面談等行い不安の解消に努めている。入居後に至っても同様である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に本人様、ご家族様と面会し希望している暮らし方をお聞きする。その後にご本人やご家族様にとって必要なサービスを見極め、場合によっては他事業所の紹介も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『一緒に生活を営む』という観念で日常生活営む。掃除、調理など可能な限り一緒に行いその中で利用者から学ばせて頂き利用者から信頼して頂ける関係を築く。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1通『日々の生活』についてのお手紙を写真付きで送付している。また、気になる事が有ったときなど電話連絡を行っている。また、家族から利用者に対しての働きかけの希望が有った時は率先して協力を行う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も希望により行きつけの理容店やサークル活動の参加。また、墓参りなどもご一緒する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もあるが、それぞれを互いに尊重し対等な立場で接していただけるよう支援している。トラブルの際は職員が介入し善悪優劣を付けるトラブルを納める事に努め、且つ同じようなトラブルの発生が起こらないよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も『相談』や『支援』には対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や要望など把握に努める事、認知症の症状から言葉にできない、意思が伝わりづらい方からも日々の生活から希望、要望を汲み取るよう努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り入居前の生活の情報を収集し自宅等に赴き情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の状況を職員間で情報の共有を行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と担当職員、ユニット職員、本人、家族から希望、要望を聞き実現可能な計画を作成し、ご家族様へ確認、了承を得てプランに反映させる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動や言動等を記録し職員間で情報の共有をし計画作成へ役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模な施設を行かし突発的なニーズ（外出であったり落ち着かれない利用者の対応など）に対しても状況により可能な限り支援を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防機関とは避難訓練を通じて連携を図っている。また、消防訓練の際に町内の方や民生委員に案内を出して頂いている。中学校からの文化祭参加の招待をうけてり、地域の祭り事にも参加している、		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に一度、医師の往診あり健康管理を行っている。また、市内の病院であれば可能な限り通院を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスとの契約あり週一回の訪問あり、また24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状の安定により医療の観点から退院が望ましい時は訪問看護と連携を行い早期退院を実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化により症状の悪化が考えられる方には主治医や医療機関との連携をはかる。ご家族様にも話し合いに参加して頂き今後の方針を決める。職員間でも方向性の共有を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット電話付近に緊急時の対応チャートを設置、職員は救急救命講習会へ参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回避難訓練を行い職員一人ひとりが避難方法を身につけられるようにしている。また、町内の方々にも避難訓練に参加している。市内グループホームに置いて合同避難訓練を行っている。また今年度は『地震』を想定した避難訓練も行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった関わり方を行うい知りえた情報などは目の触れづらいうところで保管する事やTP0に有った声かけなどを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活なかだ『主役は利用者』という事の考慮し可能な事は本人の『自己決定』に支援にあたる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『ーしたい。』という気持ちを大切に希望に添う様に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型、など本人が好まれるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聞いて献立をたて、一緒に買い物に出かけたり準備や後片付けなど可能な限り関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的なバランスの取れた食事を提供している。また、個々の利用者が好まれる飲み物を提供出来るよう準備を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた声掛け、見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り『トイレでの排泄』を行えるよう、アイテムの工夫やそれぞれにあったトイレ誘導等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもちろん医療機関へ相談し薬剤の使用を行っている。また、日々に水分補給の際など『乳酸菌飲料』を活用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	明確な入浴日は決めていないが入浴表により入浴回数等を把握し入浴の促しを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた睡眠時間を心がけており、また落ち着いた雰囲気を作るため『生活音』には気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬用を個別に管理し必要な時は確認できるよう職員間に徹底している。服用後も様子観察を行い必要であれば医療機関へ報告行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	『出来る事は協力して頂く』という趣旨から掃除、料理は可能な限り協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に応じて可能な限り『散歩』『買い物』など外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談をし本人が管理できる小額現金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を行っている。また、携帯電話を持ち込みも可能。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声かけてあったり雑音にならによる生活音に考慮し落ち着ける環境の整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に目立った工夫は行っておらず自由に居場所を作られているが誤解からなる利用者間のトラブルを防ぐよう『目配り』『心配り』を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅から移られる利用者に関しては在宅の物(使い慣れたもの)を持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の身体状況等に合わせ見守り、声かけを行い生活を営んで頂く、『危険』と思われるところには見易く掲示する。		